

平成16年8月10日  
農林水産省生産局

**食料・農業・農村政策審議会 生産分科会  
第6回畜産企画部会の概要について**

下記のとおり、食料・農業・農村政策審議会 生産分科会 第6回畜産企画部会が開催されました。

記

1. 日 時

平成16年8月9日(月) 13:00～15:50

2. 場 所

東京都千代田区九段南2-1-5  
農林水産省三番町分庁舎 2階 大会議室

3. 出席者

委員等：別紙[PDF]のとおり

事務局：畜産部長、消費・安全局参事官、畜産企画課長、畜産振興課長、  
牛乳乳製品課長、食肉鶏卵課長ほか

4. 意見交換

事務局より、「今後の主要論点と対応方向(案)」等に関する説明が行われた後、意見交換が行われ、委員からの主な発言は、以下のとおりでした。

(生産基盤関係)

我が国畜産の生産基盤(生産量、飼養頭数)は酪農、肉用牛経営ともに減少傾向にあるが、その中で、生産基盤の維持について、どう考えるのかとの視点を明らかにした上で、これと併せて担い手問題を議論すべきではないか。

公共牧場の今後の役割を明らかにすべきではないか。

(「担い手」関係)

「担い手」問題については、畜産においては相当程度構造改革が進んでおり、生産の大宗が「担い手」によって担われる構造となっている実態を踏まえて議論すべき。

酪農、肥育、繁殖ごとの特性を踏まえた「担い手」像を明らかにするとともに、これらの「担い手」によって畜産経営の大宗が担われる姿を明らかにすることが必要。

繁殖経営は、小規模経営が担っているが、仮に、経営安定対策の対象を「担い手」に絞り込んだ場合、生産が大きく落ち込むことが懸念される。

繁殖経営などについては、耕種との複合経営がほとんどであることから、畜産の「担い手」については、複合先も含めた経営全体として捉えるべき。

経営安定対策としては、いわゆるゲタ、ナラシだけでなく、融資、税制、経営継承な

ど幅広く捉え、総合的な経営体質強化策を検討するべき。

(人材の育成・確保関係)

畜産経営における女性は縁の下の力持ちであったが、これからは、もっと表に出ていくことが重要であり、そのための研修等の場が必要ではないか。

繁殖経営などは高齢者が担っている経営が多いが、畜産こそ高齢者の力をより必要とする分野であることを強力に位置づけていくことが必要ではないか。

(飼料生産に関する事項)

飼料基盤に立脚した経営における健康な家畜から生産される畜産物が、安心・安全な国産畜産物と言われると、これまで大規模化を指向してきた酪農経営は対応できなくなる。飼料基盤に立脚した大家畜畜産経営と規模拡大による低コスト経営は、土地や環境問題の制約もあって、両立を追求することは、難しいのではないか。

自給飼料生産に当たっては、土地利用調整や放牧に利用する共有地の確保の在り方についても検討すべきではないか。

飼料基盤に立脚した経営を実現するための理念を確立するためには、飼料施策として独自の方向を打ち出すことが求められているのではないか。

稲ホールクロップサイレージは、酪農家にも高く評価されており、さらに推進すべき。

(畜産環境関係)

畜産物生産が環境に及ぼす負荷の問題について、クロスコンプライアンスや汚染者負担原則の在り方も含め、政策上どう位置付けるのかについて議論が必要。

家畜排せつ物から作られるたい肥は、耕種農家にとって使い易いものであることが必要ではないか。

(消費者ニーズ関係)

多様な食生活を前提として、消費者ニーズが何であるかについて明らかにする必要。例えば、牛肉であればサシなのか赤身なのか、牛乳であれば乳脂肪なのか乳タンパクなのかによって、肥育期間や家畜改良の方向が異なってくる。

乳用種牛肉を輸入品に対抗しうる重要な国産牛肉として位置付け、表示の在り方も含めた需要拡大を図るべきではないか。

(安全性関係)

輸入飼料だけでなく、生産資材全般の安全性確保について検討すべき。

(数値目標の設定)

畜産経営や流通・販売部門が目標とすべき飼養頭数やコストの目標を数値で位置付けるべき。

(その他)

以下の点についても位置付けの検討を進めるべき。

脱脂粉乳の過剰在庫、流通飼料の合理化、輸出促進対策、日本型放牧、生産者へのリスクコミュニケーション、生産から消費までのリスク管理の徹底、地理的表示

問合せ先

生産局畜産部畜産企画課 松本、沖田

TEL 3502-8111 (内線3865, 3866)

3501-1083 (直通)

食料・農業・農村政策審議会生産分科会  
第6回畜産企画部会 出席委員名簿

(委員：2名)

生源寺  
増田

眞一  
淳子

東京大学大学院農学生命科学研究科教授  
ジャーナリスト

(臨時委員：10名)

石川  
今野  
大野  
岸野  
竹林  
中村  
平井  
矢坂  
山口  
吉田

郁子  
克枝  
康晃  
彦孝  
祐三  
力充  
雅美  
義弘  
小夜子

食と生活ジャーナリスト  
酪農自営業  
(社)日本乳業協会副会長  
(財)日本農業研究所研究員  
北海道農政部農政課長  
全国農業協同組合中央会常務理事  
全国食肉事業協同組合連合会副会長  
東京大学大学院経済学研究科助教授  
北海道農業協同組合中央会副会長  
養豚自営業

(専門委員：6名)

阿部  
金井  
高橋  
番場  
福田  
向井

亮  
俊男  
康博  
久雄  
晋  
文雄

日本大学生物資源科学部教授  
(財)畜産環境整備機構副理事長  
JA岩手ふるさと畜産部畜産酪農課長  
愛知県農業総合試験場畜産研究部長  
九州大学大学院農学研究院助教授  
神戸大学農学部応用遺伝学教授

(注：各委員の順は五十音順。)

(敬称略)